

## 第5回おだわら高齢者福祉介護計画策定検討委員会議事録

日時：平成26年10月23日（木）

午後2時30分～4時30分

場所：議会全員協議会室

出席委員 ◎木村秀昭委員、○渡邊清治委員、羽鳥孝郎委員、矢吹久美子委員、川上聖嗣委員、加藤馨委員、市川初江委員、藤間敬子委員、長岡正委員、石黒俊行委員、小泉道人委員、市川渉委員

（◎：委員長、○：副委員長）

事務局 福祉健康部部長、高齢福祉課長、高齢福祉課副課長、介護予防担当副課長、高齢福祉課高齢者相談係長、高齢福祉課主事  
介護保険課長、介護認定担当副課長、介護給付係長、介護保険課主査  
福祉政策課長、福祉政策課主査

欠席者 市川昭維子委員、長谷川剛委員、奥村知弘委員

傍聴者 3名

### 【議事】

#### 議題1 基本理念等について（継続議題）

##### 事務局

（説明）

- ・資料3「おだわら高齢者福祉介護計画（素案）」に基づき説明。
- ・基本理念等については原案で承認を得る。

##### 加藤委員

（意見）

- ・プロダクティブ・エイジングについては、労働まで考えていかないといけない。次期計画では検討くらいはしてほしい。例えば、素案の10ページの「生きがいつくり・社会参加の促進」に地域経済界や労働界との連携や、18ページの施策の展開に具体的な事業を位置付けてもらいたい。
- ・22ページの「災害弱者支援対策事業」に想定される災害に応じた高齢者支援策を講じるなどの文章をいれてほしい。
- ・24ページの「介護人材確保支援事業」には文章の頭に「サービス提供に必要」と入れてほしい。

##### 矢吹委員

（意見）

- ・素案の1ページに他計画との関係が分かるような図を入れた方が分かりやすいのではないかと。また、それぞれの計画で計画期間がバラバラなので、整合が図れるとよいと感じた。
- ・3ページの「前期高齢者人口の95%に達します」という表現は「〇年に前期高齢者人口と後期高齢者人口数が逆転する」といった表現にしてはどうか。

#### 事務局

(回答)

- ・本素案については12月中旬からパブリックコメントを求めることになるが、本日の会議でいただいた意見の中ですぐに修正できるものについては修正し、出来ないものについては第6回会議で示させていただく。
- ・なお、委員の皆様には本日いただいた意見を反映させたもの（パブリックコメントとして示す素案）を12月上旬に発送させていただく。

#### 木村委員長

(意見)

- ・示せるものは早めに修正して、委員に周知をお願いしたい。

#### 石黒委員

(質問)

- ・高齢者等実態調査はどのように生かしているのか。

#### 事務局

(回答)

- ・主に28ページ以降の介護保険サービスの見込量に反映している。

## 議題2 介護保険サービス見込量及び施設整備計画について

#### 事務局

(説明)

- ・資料3「おだわら高齢者福祉介護計画（素案）」及び追加資料に基づき説明。

#### 加藤委員

(意見)

- ・資料5の介護老人福祉施設は、次年度はもっと増えていくのではないのか。施設の利用率が95%くらいいかないと経営が成り立たない。第6期計画期間は施設整備する必要はないのではないかと。
- ・在宅の整備も考慮して計画してほしい。
- ・資料5に施設の人員数も入れてほしい。
- ・資料3 29-2ページのデイサービスについては、例えば1日1,000人対応可能な施設の

うち、660人が利用しているなど、施設が少ないといいつつも、まだ余裕があるという共通認識を持てるような表現がほしい。

(質問)

- ・短期入所生活介護（ショートステイ）の27年度からの数字の跳ね上がりについては何を見込んでいるのか。

**事務局**

(回答)

- ・25年度は定員188人だが、26年度は94人の増加があり、供給量が1.5倍となったので、その分の増加を見込んでいる。

**市川（渉）委員**

(意見)

- ・介護保険サービスの見込量は、見込量というより目標である。しっかり分析をする必要があるのではないか。
- ・例えば、介護療養型医療施設は、現在12床であるが、足りていない。実態把握をしっかりと行ってほしい。

**矢吹委員**

(質問)

- ・施設の待機者数は反映しているのか。

**事務局**

(回答)

- ・反映していない。他の施設に入居している場合等も考えられるなど、反映することが難しい。

**川上委員**

(意見)

- ・介護保険サービスの見込量については、妥当な数値だと思っている。
- ・ただし、施設入所は適切に整理していきたい。経済的には特養がいいが、空いていないから、とりあえず別の施設に入所することなども考えられる。
- ・経済面・医療面・認知症など、それぞれの施設の特性も生かしてもらいたい。
- ・グループホームの現場としては、人材確保しても辞めていく人が多い。研修など適切に利用して、育成していきたいと考えている。

### 議題3 計画素案について

**事務局**

- ・資料3「おだわら高齢者福祉介護計画（素案）」に基づき説明。

- ・質疑無し。

#### 藤間委員

(意見)

- ・家庭での介護や地域での介護があるが、家族の負担が大きくなるし、本人の負担も大きいので、今後の複合型サービスに期待している。

#### 長岡委員

(意見)

- ・曾我病院が今年、認知症疾患医療センターとして神奈川県から認定を受けたので、しっかり連携をして行うようお願いする。

#### 石黒委員

(意見)

- ・介護予防と日常生活支援に力を入れてほしい。
- ・まだまだ、外出できていない高齢者を引っ張り出してほしい。それには、プロダクティブエイジングや老人クラブをうまく利用して進めてほしい。

#### 小泉委員

(意見)

- ・行政は、市民の声をよく聞いている。特養の運営者として、市民の気持ちをよく理解していかねばと感じた。

#### 市川(渉)委員

(意見)

- ・認知症は対策が進んできてはいるが、本質をしっかりと探らないと間違った方向に行ってしまうので、注意が必要である。
- ・地域包括ケアシステムの講習会に参加したが、もう少し分かりやすくしたほうがよいと感じた。市民が動ける参加しやすい計画を作ってほしい。

#### 羽鳥委員

(意見)

- ・医療人の不足を感じている。医療は進んでいるが人が枯渇している。今ある資源を生かすとともに、人材育成が大事になってくると思う。

#### 矢吹委員

(意見)

- ・薬剤師も人材が不足している。薬剤師として活躍できる場が各事業であると思う。
- ・今回の第6期計画は、2025年を見越したものになっており、評価できる。今後は、介護予

防事業にこれまで以上に力を入れていく必要があるが、効率的、効果的に進めていってほしい。

#### 川上委員

(意見)

- ・医療と介護の連携は、介護保険制度を生かして実施していけば、良い結果が出てくると思う。年々医療費は膨れ上がってくるが、介護保険を基盤とした連携を進めていてもらいたい。

#### 加藤委員

(意見)

- ・39ページの介護予防事業の中で数値を示した説明があるが、市民に分かりやすい表現にしてもらいたい。

#### 市川(初)委員

(意見)

- ・老人クラブは、生きがいふれあいフェスティバルに作品を出展しているが、皆それぞれ生きがいとなっている。これからの時代、生きがいづくりや健康増進が大事だと思う。

#### 渡邊副委員長

(意見)

- ・介護の現場には、医療は必ず付いてくることなので、医師会としてバックアップをしていきたい。また、介護の場での看護についても人材育成は課題となっている。
- ・実践的な部分と本検討委員会のような計画的な部分があるが、実践を頑張っている介護関係の意見は大変参考になった。

### 議題4 その他について

#### 事務局

- ・次回は2月上旬を予定。パブリックコメントの結果や、介護保険サービス総費用見込額と介護保険料について報告させていただく予定である。

以上